



Zephyros⁹⁵

国立西洋美術館ニュース

ゼフュロス

ISSN 1342-8071

チュルリョーニス展 内なる星図

会期：2026年3月28日[土]－6月14日[日] | 会場：企画展示室 B2F



1



2



3

1 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス《フーガ〔二連画「プレリュード、フーガ」より〕》1908年、テンペラ/紙 | 2 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス《祭壇》1909年、テンペラ/厚紙 | 3 表紙(部分) ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス《おとぎ話(王たちのおとぎ話)》1909年、テンペラ/カンヴァス
すべて国立M. K. チュルリョーニス美術館(カウナス)所蔵 M. K. Čiurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.



4



5



6

- 4 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス
《第五ソナタ(海のソナタ):フィナーレ》1908年、テンペラ/紙
- 5 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス
《リトアニアの墓地》1909年、テンペラ/厚紙
- 6 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス
《おとぎ話Ⅲ〔三連画「おとぎ話」より〕》1907年、テンペラ/紙
すべて国立M. K. チュルリョーニス美術館(カウナス)所蔵
M. K. Čiurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.

バルト海の東岸に臨み、豊かな森と湖が織りなす国、リトアニア。この地で深く愛される国民的な芸術家が、ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス(1875-1911)です。リトアニアの地方の慎ましい家庭に生まれたチュルリョーニスは、幼少の頃から音楽の才能を見出され、初め作曲を学びますが、次第に絵画の道へと強く惹かれていきます。ところが、画家としての成熟を迎えた矢先、過度の疲労が祟り、わずか35歳の若さで生涯を閉じることとなります。彼が絵画制作に本格的に取り組んだ時期は、1903年頃から1909年までのおよそ6年間に過ぎませんが、その短い画業の中で、実に300点以上もの作品が手掛けられました。今日それらは、象徴主義絵画と抽象絵画を架橋するものとみなされ、独特の詩情を湛えた物語世界と造形的な革新性ゆえに、国際的に高く評価されています。

18世紀末以来、ロシア帝国の支配下で厳しい抑圧を受けていたリトアニアでは、日露戦争の敗戦と第一次ロシア革命を背景に、民族解放の機運が急速に高まりを見せます。そのような時代に、チュルリョーニスは、リトアニアの地方になお息づく民話や民謡、民芸といった民衆文化の再評価こそが、国家のアイデンティティの回復と固有の芸術様式の構築に不可欠であると考え、しばしばそれを自身の作品の着想源としました。一方で彼は、祖国の土着の自然崇拜からキリスト教、天文学、神智学、東洋哲学に至るまで、さまざまな思想を柔軟に吸収しました。そして、それら多様な要素を芸術において調和させることで、一民族の枠組みを超え出た普遍的な人間存在の意味や宇宙の神秘を探究したのです。

また、優れた画家であり音楽家でもあったチュルリョーニスは、きわめて独創的な方法によって、音楽と絵画の融合を試みました。「ソナタ」や「フーガ」といった絵画連作では、従来の線遠近法に基づく統一的・再現的な空間表象に代わり、それぞれのタイトルが示す音楽的構造に基づいた多層的かつ流動的な絵画空間——いわば、造形的なポリフォニーが生み出されています。その意味で、これらの作品は、造形の自律性を追求したカンディンスキーら抽象絵画の先駆者たちの試みに通ずるものとも言えます。

日本で34年ぶりの大回顧展となる本展では、リトアニアの国立M. K. チュルリョーニス美術館が所蔵する代表的な絵画・版画・素描など、約80点を展覧します。会場では、彼の音楽作品も併せてご紹介する予定です。ぜひこの機会に、チュルリョーニスの豊かな芸術世界に、眼と耳を澄ませてみてください。 [国立西洋美術館研究員 山耕あおい]

オンラインでたどる チュルリョーニスの世界

— 展覧会公式サイトのご案内

「チュルリョーニス展 内なる星図」の開催にあわせて、展覧会公式サイトでは、芸術家M. K. チュルリョーニスへの理解を深めていただける多彩なコンテンツをご用意しています。画家として、そして音楽家としての両面をたどりながら、その創作の背景に触れていただけるよう構成しました。

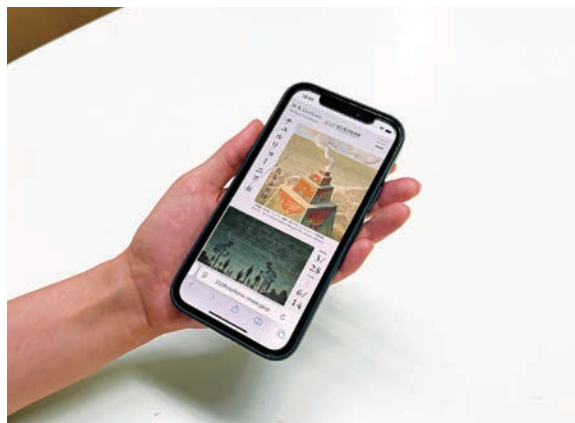
映像シリーズ「研究員による解説」や「国立M. K. チュルリョーニス美術館館長によるメッセージ」では、作品や展覧会の見どころをわかりやすく紹介しています。また、展覧会の舞台裏「チュルリョーニス展ができるまで／#Behind-the-scenes」では、準備風景や制作物が形になっていく過程など、展覧会づくりの裏側を記録とともにお届けしています。

そして、リトアニアの風景や都市を地図や写真とともにたどるフォトギャラリーページでは、チュルリョーニスの作品世界を育んだ土地の気配を感じていただけます。

さらに、音楽家としての側面に触れたい方には、チュルリョーニスの曾孫でピアニストのロカス・ズボヴァス氏がセレクトしたプレイリスト「#SoundFirstČiurlionis」がおすすめです。Chat Room SEIBIシリーズ「Čiurlionis 100 Questions — 見る前に聞いてみる？ チュルリョーニス 100のこと。」では、みなさまから寄せられた質問やエピソードを手がかりに、広報担当の研究員がその魅力をわかりやすく紐解きます。

あわせて、講演会やスライドトークなどの関連プログラムに関する最新情報についても、公式サイトでご案内しています。どうぞ展覧会とともに、オンラインにひらかれた星図をたどるようにご覧ください。

〔国立西洋美術館特定研究員 風戸美伶〕



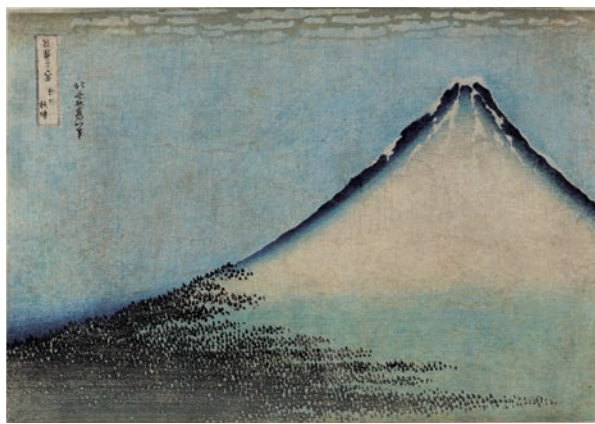
北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより

会期：2026年3月28日[土]－6月14日[日]

会場：企画展示室 B3F



「神奈川沖浪裏」



「凱風快晴」
(通称“青富士”)

すべて葛飾北斎『富嶽三十六景』より、1830-33（天保1-4）年頃、横大判錦絵
 国立西洋美術館（井内コレクションより寄託）

葛飾北斎（1760-1849年）は、斬新な構図と卓越した表現力によって、日本のみならず西洋美術にも大きなインパクトを与えました。当館で開催した「北斎とジャポニスム」展（2017-18年）でも紹介したように、彼の影響はモネら印象派をはじめ欧米各地に広がり、リトアニアの画家 M. K. チュルリョーニスの作品にも見られます。

「チュルリョーニス展 内なる星図」と同時開催される本展は、2024年に井内コレクションより当館に寄託された、北斎の『富嶽三十六景』（1830-33年頃）を初披露する展覧会です。本シリーズ全46図を一挙に公開するほか、特に高い人気を誇る「神奈川沖浪裏」と「凱風快晴」の異なる摺りをもう1枚ずつ併せて紹介し、計48枚をご覧ください。「神奈川沖浪裏」は現存屈指の優れた摺り・保存状態を誇る1枚が、「赤富士」として知られる「凱風快晴」は極めて稀少な藍摺版、通称“青富士”が加わります。

井内コレクションの『富嶽三十六景』の特色は、全般に摺られた時期が早く、線が非常にシャープな点です。また、裏打ちが施されていない作品が多いため、背面からも色の鮮やかさや摺師が力を込めたバレンの跡を確認できます。本展では、一部作品を表裏両面から鑑賞できる展示方法を採用し、江戸の人々が浮世絵版画を手に取り、表や裏を返ししながら楽しんだ感覚を追体験していただける予定です。西洋美術コレクションを誇る当館で、北斎の代表作を堪能できるまたとない機会となります。是非ご期待ください。

〔国立西洋美術館特定研究員 久保田有寿〕

アーティスト・バイ・アーティスト

— 西洋版画に見る芸術家のイメージ

会期：2026年3月28日[土]－6月21日[日]

会場：版画素描展示室

ルネサンス以降、西洋の美術において作者の姿は頻繁に造形化され、なかでも自画像は一般的な画題としてあまねく定着しました。本展は、自画像を含む芸術家の表象の史的変遷を、国立西洋美術館が所蔵する版画を中心とした作品50点弱を通じて辿るものです。

造形作品においてその作者の姿が表されるようになった背景には、社会における表現者のありかた、地位の変遷を挙げることができます。中世の間、彼らは匿名の職人であり、その姿が造形物に表現されることは滅多にありませんでした。しかし16世紀以降、彼らは制作行為を学問や科学と結びつけて理論化し、自らを知的な自由学芸の実践者にして天才たる「芸術家」として確立させていきます。こうした地位向上が、表現者個人に対する関心の増大を招き、その結果として芸術家自身が表現の主題、目的として表されるようになるのです。さらに19世紀になると、芸術家は思考する「個」としての自覚を深め、孤高なる、苦悩する表現者へと変貌していきました。

本展では、デューラー、レンブラント、ゴヤ、ピカソによる作例を通じ、自画像や個別の芸術家の肖像だけでなく、制作中の姿や、理想像としての芸術家像もあわせて展示します。多彩なイメージを通して、芸術家とは何者であるかを問い直し、創造と自己表現の歴史を振り返ってみたいと思います。

〔国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介〕



ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネ、通称イル・グレケット《ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネの天分》1648年、エッチング 国立西洋美術館

2025年度新規収蔵作品より

クリストフ・アムベルガー《バルバラ・シュヴァルツの肖像》

1542年 油彩、板 72 x 61.2cm P.2025-0001

ルネサンス期のドイツを生きたクリストフ・アムベルガーは、日本ではいまだ馴染みの薄い存在かもしれませんが、当時のヨーロッパで有数の金融都市であったアウクスブルクで活動した、同地における最大の肖像画家だったともいえる人物です。今年、2025年に国立西洋美術館のコレクションに仲間入りしたアムベルガーの板絵には、アウクスブルクで暮らしていた高官の妻、バルバラ・シュヴァルツの姿が描かれています。これはマドリッドのティッセン＝ボルネミッサ美術館に所蔵されるアムベルガーの代表作《マテウス・シュヴァルツの肖像》と対をなすもので、たいへん貴重な作例です。さまざまな人的つながりや社会的ネットワークをつうじて16世紀前半のアウクスブルクに流入していたイタリア・ルネサンスの肖像画の形式、なによりもヴェネツィア絵画のそれを受容し、独自に消化したという点で、アムベルガーは特筆されます。今回の購入作品は、まさにそのことを顕著に物語る一作であり、アルプス山脈を超えた芸術の南北交流のありかたを考察してゆくうえでも、きわめて重要な対象です。ほとんど工芸的な手つきで繊細に描きだされた黒や白の衣服の細部、特徴的なホロスコープなどを備えたこの作品は、国立西洋美術館の絵画コレクションに、ほかとは異なる静かな彩りをくわえるとともに、われわれの研究課題を多分に押し広げてくれます。

〔国立西洋美術館主任研究員 新藤淳〕



Programs

家族で美術館を楽しもう！

国立西洋美術館ではお子さま連れのお客様に美術館をお楽しみいただけるさまざまなイベントやプログラムをご用意しています。ファミリープログラム「どうぶじゅつ」は6～9歳の子どもとその保護者を対象にしたプログラムです。小さなグループに分かれてボランティア・スタッフと話をしながら常設展の絵や彫刻を鑑賞するほか、創作などの体験活動も楽しむことができます。本プログラムでは子どもだけではなく、大人も参加者の一員です。作品をじっくり鑑賞し自由に感想を言い合うなかで、思いがけない子どもの発言に大人が学ぶこともあり、美術を通して子どもと大人が相互に学び合う場にもなっています。

「どうぶじゅつ」のほかにも、乳幼児をお連れのお客様が安心して美術館にお越しいただける日や、会話しやすい環境を作り、どなたでも思い思いに美術館をお楽しみいただくことを目指した日も設けておりますので、美術館デビューの場としてもご活用ください。その他、小さなお子さま連れのお客様に向けた託児サービスや授乳室、おむつ交換台などの情報は当館ウェブサイトにてご案内しています。ぜひご活用いただきながら家族で美術館をお楽しみください。

〔国立西洋美術館教育普及室 飯田有季〕



〔CAFÉ すいれん〕

営業時間：10:00-17:30（食事11:00-16:45 L.O. | 喫茶10:00-17:15 L.O.）／金・土曜日10:00-20:00（食事11:00-19:10 L.O. | 喫茶10:00-19:30 L.O.）

※ 食事の提供時間は時期により早まる場合があります。詳しくは館内の掲示をご確認ください。

〔ミュージアムショップ〕

アルブレヒト・デューラー（1471-1528年）の木版画4作品が連なったポストカードが多くの皆さまにご好評いただいています。絵はがきにした4作品は、当館が所蔵する1511年に出版されたアルブレヒト・デューラーの「三大書物」活字印刷本の木版画群から、『黙示録』（ラテン語版再版）から2点、『大受難伝』から1点、『聖母伝』から1点を選びました。ため息が出るほどみっちり彫り込まれた画面。うごめくように細かく刷りだされた木版画の黒いインクの線。デューラーの木版画はどれだけ見ても見飽きません。ご自身の記念として、一枚ずつ切り取ってお使いとして、または美術好きな方へのプレゼントとして、お使いください。実際に作品をご覧いただける貴重な機会である小企画展『物語る黒線たち—デューラー「三大書物」の木版画』（2月15日〔日〕まで開催中）もお見逃しなく。鑑賞後にはショップへお立ち寄りください。



デューラー版画4連がポストカード4作品
《四人の騎手》『黙示録』5、1497/98年頃、1511年出版（ラテン語版再版）、木版
《書物をむさぼり喰う聖ヨハネ》『黙示録』10、1498年頃、1511年出版（ラテン語版再版）、木版
《冥府への降下》『大受難伝』11、1510年、1511年出版、木版
《受胎告知》『聖母伝』8、1503年頃、1511年出版、木版
すべて国立西洋美術館所蔵

オンラインショップ
<https://www.nmwtokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式Instagram
@nmwtokyo_shop



展示カレンダー〔企画展示／常設展示〕2026年2月—6月

2月〔Feb.〕	3月〔Mar.〕	4月〔Apr.〕	5月〔May〕	6月〔Jun.〕
常設展				
〔小企画展〕—2月15日〔日〕 物語る黒線たち— デューラー「三大書物」の木版画	〔小企画展〕3月28日〔土〕—6月21日〔日〕 アーティスト・バイ・アーティスト—西洋版画に見る芸術家のイメージ			
	〔小企画展〕—5月10日〔日〕 フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵—100年越しの“再会”			
〔企画展〕—2月15日〔日〕 オルセー美術館所蔵 印象派—室内をめぐる物語	〔企画展〕3月28日〔土〕—6月14日〔日〕 チュルリョーニス展 内なる星図			
	〔企画展〕3月28日〔土〕—6月14日〔日〕 北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより			

〔開館時間〕9:30-17:30（毎週金・土曜日9:30-20:00）＊入室は閉室の30分前まで

〔休館日〕月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間、年末年始、臨時休館日

〔臨時開館・臨時休館等のお知らせ〕

臨時開館：2026年2月9日〔月〕、3月30日〔月〕 | 展示替え休館：2月16日〔月〕—3月27日〔金〕

〔常設展無料観覧日〕2月8日*、4月12日*、5月10日*、6月14日*

（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

＊ 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

〔常設展〕

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

